

令和7年度 志教育全体計画

宮城県村田高等学校

校 訓
誠意 勤労 識見 気魄 協和
ス ロ ー ガ ン
生活に活気 学習に意欲 行動に責任

本校の教育目標
知・徳・体の調和のとれた幅広い力量を備え、夢と志をもって社会や地域の発展に貢献できる生徒の育成を目指す。
(1) 主体的に考えて行動できる力を養い、自らの夢や希望の実現を図れる生徒の育成
(2) 歴史や文化および規範を尊重する心と責任感や思いやりの心を持った生徒の育成
(3) 健康な体を持ち、基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成

生徒の実態、教師の願い

＜生徒＞大人しくて素直であるが、主体性・忍耐力・表現力や企画力に乏しい面が見られる。基礎学力が低い生徒もあり、家庭学習時間が少ない傾向にある。

＜教師＞よく学びよく活動し責任ある行動が取れる人間として社会に送り出したい。

保護者や地域の願い

＜保護者＞礼儀正しくしっかりした考えを持って進学や就職をしてほしい。

＜地域＞今後も益々小中学生の模範となる生徒・学校になってほしい。地域等の行事にも積極的に参加・協力してほしい。

志教育の目標
(1) よりよい人間関係を築く力・態度を身に付ける。
(2) 夢や志をもち、実現できる学力を身に付ける。
(3) 社会に出て、役割を果たせる力を身に付ける。
(4) 災害に適切に対応する能力を身に付ける。

重 点 指 導 事 項		
人と「かかわる」	よりよい生き方を「もとめる」	社会での役割を「はたす」
○様々な人との交流をとおり、コミュニケーション能力を養うとともに、集団や組織の中でよりよい人間関係を築く協調性や社会性を養う。	○家庭学習に積極的に取り組み、基礎学力を高めるとともに、進路実現を図る学力を身に付けさせる。	○HR、委員会、部活動、各種行事などとおして、自分の果たすべき役割を認識し実行させる。
○礼儀を重んじ、他人の話をよく聞き、建設的な考えや意見を持ち、述べるができるようにする。	○各教科・領域の学習をとおり、職業との関連を理解させながら、一般教養、知識・技術、技能を幅広く身に付けさせる。	○住みやすい地域社会のしくみについて考えさせるとともに、責任と義務を認識し果たすことの重要性を理解させる。
	○地震等の自然災害は、地域の自然や歴史などと深く関わるので、地域の特性、実態を十分踏まえて防災教育の重要性を理解させる。	

各教育活動における取組の観点	
各教科	○意見・感想を发表或し、作文をしたりする時間をできるだけ設けるように努める。
道徳	○宿題や課題に取り組ませ基礎学力の向上を図るとともに、授業の理解度アップを目指した授業の工夫・改善に取り組む。
総探の時間	○みやぎ防災教育副読本の活用を図る。
特別活動	○HRの時間や全体集会等を利用し、生命の尊重、礼儀や言葉遣いの大切さ、志をもつことの意義、環境保全の重要性などを取り上げて道徳的価値・道徳的実践力を身に付けさせる。
その他	○国や地域社会に貢献する重要性を考えさせ、发表或し、まとめたりする力を身に付けさせる。
	○「産業社会と人間」をとおり学んだことに基づき、発展的な活動に取り組む、主体的に活動させる。
	○学んだ内容や活動成果をまとめたり、发表或しすることをとおしてプレゼンテーション能力を身に付ける。
	○横断的・総合的な学習をとおり自己のあり方や生き方を探究し、社会や地域のために、独自の視点や関わりで主体的に課題を設定し、協働的に解決する能力を育成する。
	○HR、各種集会、各種委員会活動や部活動をとおり、与えられた役割について責任を自覚させ実行させる。
	○各種行事に積極的に参加させ、社会性を育てる。
	○みやぎ防災教育副読本の活用を図る。
	○ボランティア活動を奨励し、地域や社会に貢献する意義を理解させ、自己有用感をもたせる。
	○各種資格試験・検定試験に積極的に挑戦する意識を喚起し、進路開拓に役立たせる。

各年次の取組内容	
1年次	○勉強の方法を丁寧に教え、学習習慣を身に付けさせるとともに、個々の生徒の実態に応じたきめ細かい指導を行う。
2年次	○地域でのボランティア活動や地域の人材との連携を通じて、社会貢献と地域との結びつきについて考えさせる。
3年次	○職場見学等を通じて職業の種類や内容を調べさせ、多くの人材(外部講師等)を活用し職業選択の方法を理解させる。
	○働くことの意義について経済的な面と社会や家族に対する貢献という観点から明確に理解させる。
	○自分の考えを進んで発表させる機会を極力持たせる。
	○防災教育を通じて、被災地理解と防災意識を高める。
	○総合的な探究の時間を活用してキャリア教育の充実を図る。
	○基礎学力の定着、学習習慣の定着に向けた指導を強化する。
	○インターンシップを経験させ、社会人としての役割を認識できるようにする。さらに、報告書の作成やその発表を通して自己の適性に叶う職業選択ができるように指導する。
	○自己理解を深め、資格取得、ボランティア活動など自己研鑽に励み、進路目標に向けた活動を積極的に取り組めるように指導する。
	○進路情報を計画的に与え、進路意識の向上を図る。また、進学・公務員希望者を対象に模試試験を実施し、学力の推移を把握し適切な指導を行う。
	○成年年齢の引き下げに対応すべく、主権者教育、消費者教育
	○進路学習を充実させ、春から夏の間に自分の希望進路と向き合い、進路活動を開始できるようにする。
	○面接指導、小論文指導の早期開始と全職員での指導を徹底する。
	○進路指導部と連携した模試の利用と分析に基づいた指導を充実させる。
	○大学進学を希望する生徒の大学入学共通テスト利用に対応できる指導を行う。(一般入試受験も視野に入れた指導)
	○就職希望者に対する履歴書作成と面接の指導を充実させる。
	○合格者や内定者への事後指導を強化する。
	○未内定者への丁寧で継続的な支援をする。

家庭との連携
○保存用年間スケジュールの配布徹底
○配布物・連絡の周知徹底
○三者面談の充実
○進路情報のタイムリーな提供・内容の充実
○家族内対話の重視実践依頼
○OPTA活動の活性化

地域・企業との協働
○地域主催行事への積極的参加と地域への学校公開促進を図る。
○地域や関連企業の人材の有効活用を図る。インターンシップ依頼企業の開発を図る。
○就職支援教員を利用した地域企業への就労チャンス拡大の試み強化。